

# 自 己 評 価 書

(平成21年度)

平成22年3月

鳴門教育大学附属幼稚園

目 次

I	学校の現況及び目的	1
II	評価項目ごとの自己評価	3
	1. 教育課程・指導	3
	2. 保健管理	5
	3. 安全管理	7
	4. 特別支援教育	9
	5. 組織運営	11
	6. 研修（資質向上の取組）	13
	7. 学校評価	15
	8. 情報提供	19
	9. 保護者・地域住民との連携	20
	10. 子育て支援	22
	11. 教育環境整備	25
	12. 教育実習	28
	13. センターの役割	32
III	自己評価別添根拠資料一覧	33

## I 学校の現況及び目的

### 1 現況

- (1) 学校名 鳴門教育大学附属幼稚園
- (2) 所在地 徳島市南前川町2丁目11番地の1
- (3) 学級等の構成  
3歳児1学級, 4歳児2学級, 5歳児2学級  
保育課程 2年保育, 3年保育
- (4) 幼児数及び教員数(平成21年5月1日)  
幼児数146人 教員数7人(正規教員)

### 2 目的

#### (1) 目的・使命

本園の目的は、附属幼稚園園則第1条において「義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長する」と定めるとともに、同条第2項では「幼児期の教育に関する各般の問題につき、保護者及び地域住民その他関係者からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行うなど、家庭及び地域における幼児期の教育の支援に努める」と定めている。

また、園則第1条には「鳴門教育大学における幼児の保育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の教育実習等の実施に当たることを目的とする。」と定めており、具体的には教員養成大学の附属幼稚園として、次のような使命をもった幼稚園でもある。

- ①大学と一体となって、教育の理論及び実践に関する科学研究を行う研究幼稚園としての使命
- ②地域の教育課題の解明、参観者への指導・助言、文部科学省・県教委・地教委等からの要請による教員派遣など、教育界の発展に寄与する使命
- ③鳴門教育大学の学部学生及び大学院生の教育実習等を行う使命

#### (2) 教育目標

本園は、園則第1条に示されている幼稚園教育の目的の達成のため、次のような教育目標を掲げている。

- ①自主・自立・創造・感謝の精神の芽生えを養うこと。
- ②健康でたくましい心身を養うこと。

③それぞれのよさや違いを認め、育ち合う感性を養うこと。

④身近な環境に対する興味や思考力の芽生えを養うこと。

⑤喜んで話したり聞いたりする態度や言葉に対する感覚を養うこと。

⑥創作的表現に対する興味や豊かな感性を養うこと。

#### (3) めざす子ども像

本園は、教育目標に基づき、次のように「めざす子ども像」を明確に示している。

- たくましい子ども
- しなやかな子ども
- 育ちあう子ども

#### (4) 平成21年度重点目標

鳴門教育大学・附属学校との連携を強化し、中期目標・中期計画・本年度計画等の実現に努めながら、教育目標の具現化を図る。

- ①新幼稚園教育要領の改訂の趣旨を踏まえた幼稚園教育の具現化に取り組む。
- ②教育の質的向上を図る「遊誘財」研究を推進する。
- ③専門性や実践力を養う実地教育の充実に取り組む
- ④地域の幼児教育のセンター的役割を果たす。
- ⑤園務の能率化や教職員の勤務の適正化を図る。

#### (5) 評価項目

##### ①教育課程・指導

・幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況

##### ②保健管理

・保健計画の改定の状況

##### ③安全管理

・危機管理マニュアル等の作成・活用の状況

##### ④特別支援教育

・園内委員会の設置、特別支援教育コーディネーターの指名や研修の実施等、特別支援教育のための園内支援体制の整備の状況

##### ⑤組織運営

・園務分掌が適切に機能するなど、明確な運営・責任体制の整備の状況

##### ⑥研修(資質向上の取組)

・園内研修や園外研修の実施及び参加の状況

⑦教育目標・学校評価

- ・学校関係者評価実施及び運用の状況

⑧情報提供

- ・情報提供の活用の状況

⑨保護者，地域住民との連携

- ・保護者・参観者等を対象とするアンケートの結果

⑩子育て支援

- ・保護者の実情や要望による幼稚園の子育ての支援活動の実施状況

⑪教育環境整備

- ・設置者と連携した施設設備の安全・維持管理のための整備の状況

⑫教育実習

- ・専門性や実践力を養う教育実習の実施の状況

⑬センター的役割

- ・幼児教育関係者への研修支援，教員派遣等の状況

## II 評価項目ごとの自己評価

### 評価項目1 教育課程・指導

#### (1) 観点ごとの分析

##### 観点1 幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導はできているか

###### 【観点到係る状況】

今年度は、保育の質的充実を目指した遊誘財データベースの構築にむけた研究の初年度に当たる。幼児の発達に即して、幼稚園教育要領に基づいた指導の内容や方法を明らかにし、保育の質の向上を図ることが、義務教育及びその後の教育の基礎を培う幼稚園教育の発展に繋がることを共通理解し、これまで様々な角度から研究と実践を積み重ねてきた成果を整理し、さらに日々の保育実践を鍛え、保育の質を充実させるため事例記録の集積・整理を進めた。そして、それらのデータベース化を図ろうと考え、保育の質を問い、高めるために保育実践を語る言葉を探し、磨くとともに、保育を分析・構築していくプロセスを通して保育の質の充実を目指した。

また、教育課程に基づく具体的なねらいや内容、環境の構成、教師の援助などの指導の内容や方法を明らかにしつつ、本園の特徴である植物環境プランやおやつを部屋を中心とした食育指導も含め、昨年度発行した「生活プラン」を月ごとに幼児の実態に即して見直した。

一方、指導計画及び教育課程に係る教育時間の終了後等に、保護者の教育相談・子育ての不安軽減・幼児理解や発達理解の深まり・保護者のリフレッシュ・保護者間の親睦推進等を目指し、保護者が相互に語り合ったり学び合ったりすることを目的として、①毎月第3金曜日の夜に本園遊戯室で「よるトーク」を開催し、②従来実施していた飼育栽培活動をベースにして夏期休業中に園内で9日間の「夏期保育」を実施するとともに、③1月から週1回程度、教育課程内の保育終了後、生活や遊びの場を提供する「あいあいサポート」を実施し、3本の新規子育て相互支援事業に試行的に取り組んだ。

###### 【分析結果と根拠理由】

本園の「生活プラン」(2008.11.20 発行)及び2009.11.28 発行の「研究紀要第43集」等の刊行物は、文科省からの要請により再々送付し、県内外を問わず、幼児教育関係者や研究者から引き続いて評価を得ている状況である。

また、本園の保育実践や教師の指導力について、幼児教育研究会(来園者296名)や本園オープンスクールの参観者(134名)に尋ねたアンケート集計結果によると、本園の保育について「とてもよい」との回答が、教育関係者89%、保護者96.7%から寄せられ、教師の姿勢や指導力に関しては、「子どもを尊重しながら、先生が適切なアドバイスを与えて遊びを盛り上げたり、広げたりしている」「先生方の適切な指導が素晴らしい」「各学年により適切な配慮が感じられ素晴らしいと思った」「先生が目配りが行き届いている」「興味のある遊びによく熱中できるように指導している」等の自由記述が多数見られた。

試行的に実施した保護者にとっての直接的な支援となる「子育て相互支援事業」について

は、実施日数の増加や次年度の継続を望む声も多く、本園教育への満足感や教育課程内の保育内容との繋がりに配慮した子育て支援活動に賛同している旨の記述や声が多数寄せられた。

資料1-① 平成21年度 附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果（一部抜粋）

平成21年度 附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果	
実施日	平成21年11月8日（日）
対象	オープンスクール参観者 134名（アンケート回答者 114名）
内容	1 保育について 3段階評価及び自由記述
	2 環境整備について 3段階評価及び自由記述
	3 その他感想・意見 自由記述

アンケート集計結果	
○保育について	
・とてもよい	110名（96.5%）
・あまりよくない	1名（0.9%）
・どちらでもない	2名（1.7%）
・記入なし	1名（0.9%）
○環境整備について	
・よく整っている	106名（93.0%）
・もっと整えて欲しい	5名（4.4%）
・どちらでもない	3名（2.6%）

**保育について自由記述の概要**

★自主性・主体性・意欲・好きなこと・遊びを大切にした保育

- 子どもの自主性を尊重している。 2
- 皆が好きなこと（したいこと）を自由に行っている。 5
- 子どもが好きなときに好きな遊びをしている。
- それぞれの園児が興味がある遊びに夢中になり遊んでいる。 3
- 子ども達が思いのまま遊びを楽しんでいる。
- 自分のしたいことに意欲的に楽しく取り組んでいる。
- おのおのが自分なりのテーマを決めて遊んでいる。 2
- 子どもの意志に準じて遊びが行われていてとても良い。
- 自分の取り組みたいものを力一杯できる時間があり、とても良い。
- 自分の好きなことを自分で考えてみつけて行うこと。
- 子どもの自主性を伸ばしているのびのびしている。 2
- 自主性、創造性をうまく引き出すような仕掛けが随所に見られた。
- 好きなことをさせているようだが、すべてのことに意味があり、子どもの成長に繋がった保育なんだと思った。

別添資料	1-① 平成21年度 附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果
別添資料	1-② 平成21年度 附属幼稚園幼児教育研究会アンケート集計結果
別添資料	1-③ 平成21年度 幼稚園評価アンケート結果報告書
別添資料	1-④ 附属幼稚園生活プラン（2008.11.20 発行）

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### 【優れた点】

幼児の発達に即した保育実践の質的充実や保育者の力量形成が上手くかみ合った状態である。

### 【改善を要する点】

「生活プラン」の見直しを継続する。

## (3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

### 自己評価の基準

- A 十分達成されている
- B 達成されている
- C 取り組まれているが、成果が十分でない
- D 取組が不十分である

※評価項目ごとの自己評価の基準は、以下同じ

## 評価項目2 保健管理

### (1) 観点ごとの分析

#### 観点2 保健計画が改定されているか

### 【観点到係る状況】

#### (1) 月別の指導計画の見直しの実施

今年度も月別の指導計画を見直し、月ごとにかかりやすい疾病の予防などについて計画を立て、それに沿って保健管理や保健指導を実施した。特に今年度は、新型インフルエンザが5月頃から流行し始めたので、その対応について指導計画を見直し、予防や対応に取り組んだ。

#### (2) 保健指導の実施

登園前には家庭での検温を実施し、毎朝保護者が連絡帳に体温を記入し、担任が個々に確認した。登園後のうがい・手洗いの強化と手指消毒用アルコールでの消毒を毎日実施した。集会で、手洗いの効果についての話をしたり、咳エチケットやマスクの着用についても細心の注意を払いながら継続指導した。

### (3) 保護者への保健指導に関する協力

絵本の部屋の時間（12:00～12:20）を利用し、各組ごとに、保護者に対して講話をして新型インフルエンザ予防に対する知識を高めたり、文科省提供のVTRを親子視聴したり、毎月「ほけんだより」を配付して、家庭での指導に役立てるよう協力を求めてきた。保護者も園内への立ち入り時には必ずアルコール消毒をしたり、咳エチケットを励行するよう依頼した。

### (4) 新型インフルエンザの予防接種の実施

早い時期に大半の園児が予防接種を受けることができ、感染しても比較的軽くすみ、学級閉鎖や園閉鎖にはならず、終息に向かっている。

別添資料 2-① 新型インフルエンザに対する対応について<8月31日改訂版>  
別添資料 2-② ほけんだより 11月号

#### 【分析結果と根拠理由】

年度当初に学校保健計画を立て、健康診断の実施や疾病予防の取り組みを行っているが、今年度の新型インフルエンザ流行のように、緊急を要する対応が必要な場合には、状況に応じて計画を改定していくことが大切であり、今年度は国や県や保健所・大学からの最新の情報を得て、園医の指導を受けながら対応した。

### (2) 優れた点及び改善を要する点

#### 【優れた点】

- ・今年度は、特に新型インフルエンザ感染予防対策が緊急の最重要課題であった。必要に応じて対策を協議し、全職員に周知を図って即実践した。
- ・全職員が危機感をもち、早期から手洗い・うがい・アルコールによる手指消毒を徹底した。
- ・養護教諭がリーダーシップをとり、毎日の欠席状況や家族の感染状況を把握し、家庭にも協力をよびかけ、可能な限りインフルエンザウイルスを園内に持ち込まないように努めた。
- ・登園後も職員が健康観察を絶えず行い、体調の悪い幼児には検温をしたり、早めに迎えに来てもらうなど、万全の措置を講じた。

#### 【改善を要する点】

- ・特になし

### (3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。



## 評価項目 3 安全管理

### (1) 観点ごとの分析

#### 観点 3 危機管理マニュアル等が作成され活用されているか

##### 【観点到係る状況】

「平成 21 年度 安全管理計画 - 危機管理マニュアル -」（別添資料 3 - ①）を作成し、それに基づき計画的に安全管理を実施している。

#### 資料 3 - ① 防災・避難訓練の実施

##### ① 防災訓練（地震）計画

- ・ねらい ・実際に地震が起こった時、保育者の指示にしたがって速やかに行動できるよう安全な避難の仕方を身に付ける。  
・地震の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。
- ・期 日 平成 21 年 5 月 7 日（木） 11:00～11:15

##### ② 幼小合同避難訓練（不審者対応）計画

- ・ねらい ・実際に保育中不審者が侵入してきた場合、保育者の指示に従って速やかに行動できるよう安全な避難の仕方を身に付ける。
- ・期 日 平成 21 年 6 月 1 日（木） 9:40～10:25
- ・状況設定 小学校の敷地内への不審者の侵入を許した場合を想定  
不審者が 2 年生棟東側の塀を乗り越えて小学校敷地内に侵入。  
男性は棒（50cm）を所持し、入校許可証などはつけていない  
（小学校教員が不審者役になる）

##### ③ 防災訓練（地震・火災）計画

- ・ねらい ・実際に地震や火災が起こった時、保育者の指示にしたがって速やかに行動できるよう安全な避難の仕方を身に付ける。  
・地震や火災の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。
- ・期 日 平成 21 年 9 月 1 日（火） 11:00～11:20  
雨天時は部屋の中とする

##### ④ 幼小合同避難訓練（地震・津波）計画

- ・ねらい ・実際に地震や津波が起こった時、保育者の指示にしたがって速やかに行動できるよう安全な避難の仕方を身に付ける。  
・地震や津波の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。
- ・期 日 平成 22 年 1 月 8 日（金） 9:45～10:25

##### ⑤ 防災訓練（地震）計画

- ・ねらい ・実際に南海地震が発生したと想定して、緊急地震速報を聞き、保育者の指示に従って速やかに行動できるよう安全な避難の仕方を身につける。  
・地震の恐ろしさ、生命や身体を守ることの大切さを知る。
- ・期 日 平成 22 年 1 月 18 日（月） 9:30～9:50

### 【分析結果と根拠理由】

危機管理マニュアルを作成し、年度当初に職員会で周知しているため、避難訓練の際にはさらに詳しく確認するよう努めている。

別添資料 3-① 平成21年度 安全管理計画 ー危機管理マニュアルー

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### 【優れた点】

- ・危機管理マニュアル（安全管理計画）に基づき、毎日、毎月の安全点検や防災・避難訓練を実施することにより、事故の防止に努めるとともに、幼児は安全な避難の仕方を身につけることができ、また、生命や身体を守ることの大切さを知ることができると思う。
- ・AEDを平成20年12月に設置することができ、一層安全管理体制が強化された。

### 【改善を要する点】

- ・特になし

## (3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

## 評価項目4 特別支援教育

### (1) 観点ごとの分析

#### 観点4 園内委員会の設置、特別支援教育コーディネーターの指名や研修の実施等、特別支援教育のための園内支援体制の整備はされているか

### 【観点到係る状況】

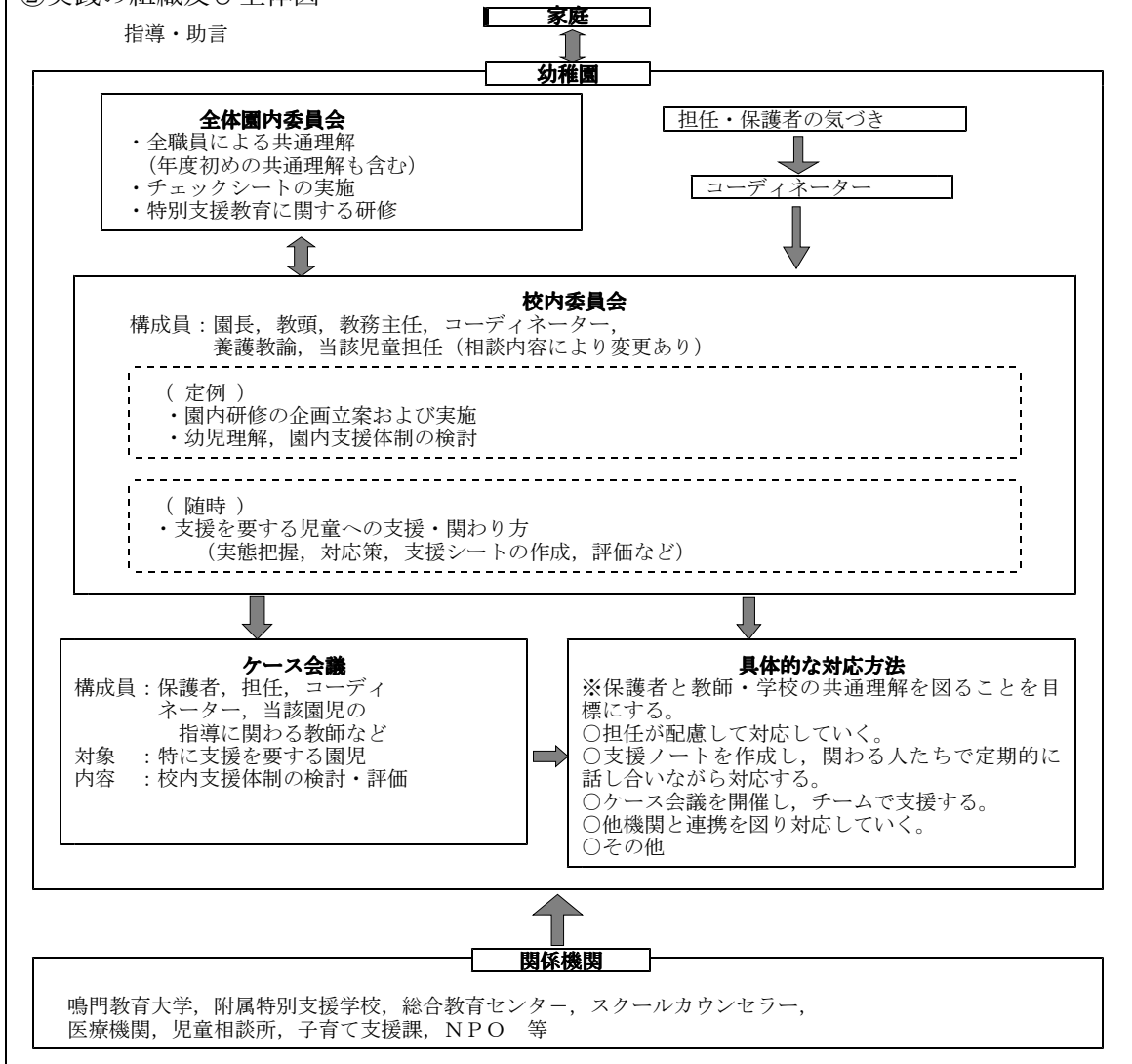
園内委員会を設置し、特別支援教育コーディネーターの指名を行い、研修を実施している。幼稚園・小学校の連携を密に行い、鳴門教育大学特別支援教育コースとも連携を図り、支援の必要な幼児には支援ノートを作成するなどの対応を行っている。また、特別支援学校の研究発表会にも参加をし、特別支援教育のための園内支援体制の整備を行っている。

資料 4-① 特別支援教育計画

①実践のねらい

すべての幼児を対象に、子どもたちが持つ様々な課題を“教育的ニーズ”にとらえ、園全体で個別のニーズに応じた教育の実践を行う。

②実践の組織及び全体図



資料 4-② 特別支援教育に関する参加研修

○特別支援コーディネーター研修

期日 平成21年7月28日（火）

場所 徳島県立二十一世紀館（文化の森）

内容 「アセスメントの基礎的な理解と活用」 発達センター徳島所長・臨床心理士 上岡義典氏

○東部圏域発達障害児者支援体制整備事業講演会・発達障害早期サポート支援事業

期日 平成22年1月30日（土）

場所 あわぎんホール

内容 「コーチング体験セミナー in 徳島 ～もっとあなたが輝くために！コミュニケーションを見直してみませんか～」

講師 鱸（すずき）伸子コーチ

○発達障害講座

期日 平成22年2月6日(土)・7日(日)

場所 明治安田生命こころの健康財団(東京都豊島区高田3-19-10)

- 内容
- ・講義1 発達障害の概念
  - ・講義2 発達障害の各論(高機能自閉症・アスペルガー障害・注意欠陥/多動性障害・学習障害・その他の発達障害)
  - ・講義3 発達障害の思春期問題
  - ・講義4 発達障害への対応
  - ・演習 発達障害の事例検討

### 【分析結果と根拠理由】

園内の特別支援教育の整備体制は機能し、様々な機会をとらえて、「気になる子」や特別な支援を要する園児について、職員間の話し合いや共通理解を進めている。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### 【優れた点】

- ・個々の幼児について常に職員間の共通理解をはかることができ、配慮しながら支援することができた。また、鳴門教育大学や附属特別支援学校、スクールカウンセラー、県立総合教育センターなどの関係諸機関などとも連携をし、支援をすることができた。

### 【改善を要する点】

- ・さらに職員の園内研修の機会を充実させていきたい。

## (3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「B 達成されている」と判断する。

## 評価項目5 組織運営

### (1) 観点ごとの分析

#### 観点5 園務分掌が適切に機能するなど、明確な運営・責任体制が整備されているか

### 【観点到る状況】

本園は、研究部・教育実習部・教務部の3部に編成した運営体制を組織し、3主任を責任者として配置し、それを部内教頭・園長が統括するという園務分掌を定めている。

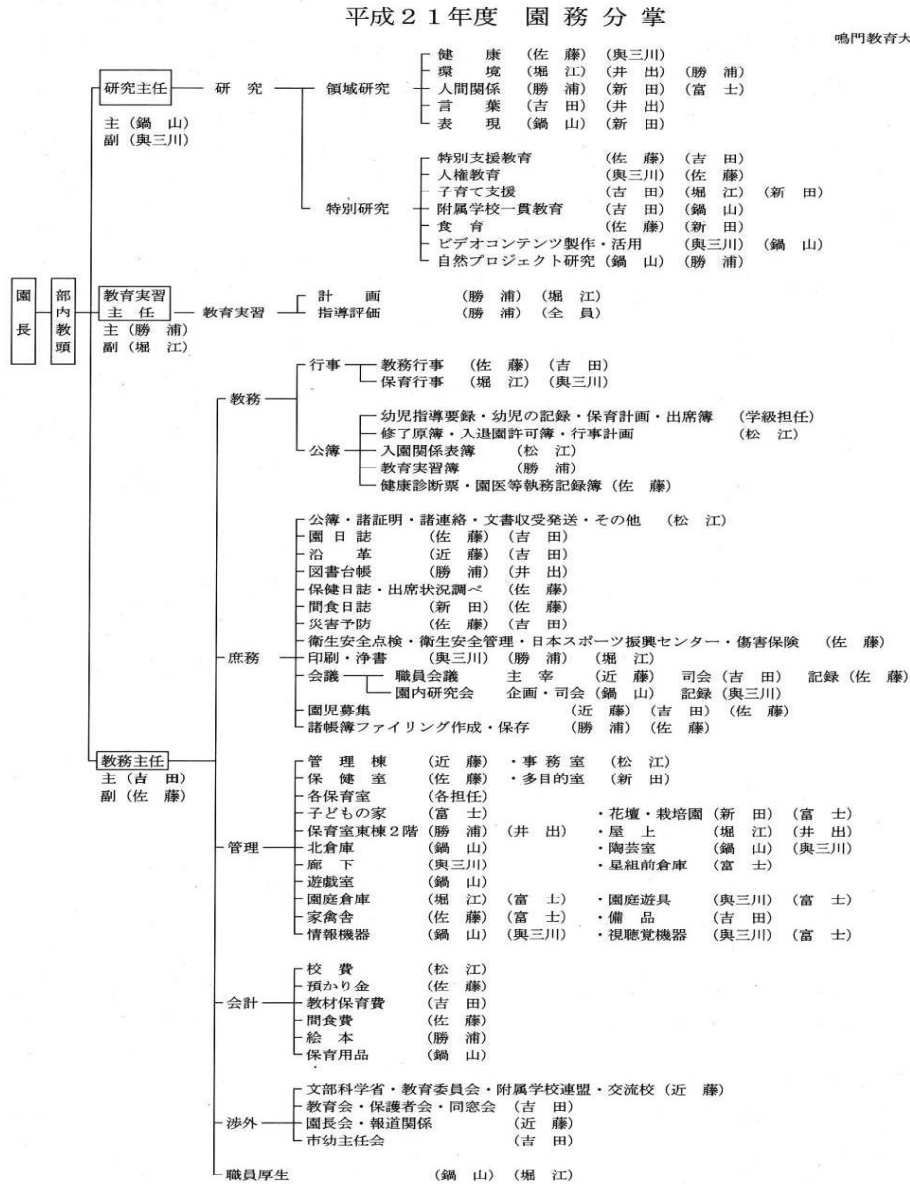
昨年度から園長専任制となり、今年度より週30時間の非常勤講師を減員した代わりにフルタイムの教育支援教員が1名配置されたため、園務分掌の見直しを図った。年度当初に教員の資質・能力・適性に応じて各担当を配置し、人的教育環境としての充実を考慮しながら、

互いに協力して園務の能率化・省力化が図れるよう配慮した。

園運営に関する事項については、毎月の定例職員会議で、担当責任者が議題や報告にあげ、全員で協議して共通理解を図って対応している。

資料5-① 平成21年度 第1回職員会議題

平成21年度 第1回 職員会議		鳴門教育大学附属幼稚園
と き	平成21年 4月 1日 (水) 11:00～12:00	13:00～14:00
と ころ	附属幼稚園多目的室	
議 事	園 長あいさつ 転入者あいさつ	
1 協議事項		(担任者)
(1) 平成21年度人事異動について	資料1	(園 長)
(2) 平成21年度 部内教頭・主任発令・学級担任及び領域研究について	資料1	(園 長)
(3) 鳴門教育大学附属幼稚園園則・附属学校部規則・同職員会議規程・同部会議規程・同運営委員会規程・同学校評議員規程・同学校関係者評価規程・同大学中期計画・中期目標・就業規則・その他申し合わせ・学校教育法等について	資料2	(園 長)
(4) 平成21年度 幼稚園要覧について	資料3	(園 長)
(5) 平成21年度 職員の勤務について	資料4	(園 長)
(6) 平成21年度 園務分掌について	資料5	(園 長)
(7) 平成21年度 年間行事計画について	資料6	(教 頭)
(8) 平成21年度 学年始休業中の計画表	資料7	(堀 江)
(9) 4月の行事予定について	資料8	(教 頭)
(10) 新学期諸準備について	資料9	(教 頭)
(11) 始業式・離任式について	資料10	(堀 江)
(12) 新入園児用品渡しについて	資料11	(鍋 山)
(13) 附属幼稚園職員連絡網・教職員名簿について	資料12	(教 頭)
(14) 入園式について	資料13	(教 頭)
(15) 芙蓉会規程について	資料14	(松 江)
(16) 同窓会名簿追録の作成について		(教 頭)
(17) 園児緊急連絡網等について		(教 頭)
(18) 文書整理・情報管理等について	資料15	(堀 江)
(19) 変形時間労働制年間カレンダーについて	資料16	(松 江)
2 連絡事項		
(1) 文書管理・情報管理等について		(園 長)
(2) 経費節減について		(園 長)
(3) 歓送迎会について	資料17	(園 長)
3 その他		
(1) 労働環境協議会役員改選について		(園 長)



**【分析結果と根拠理由】**

上記資料のような組織で園務を分掌し、幼稚園運営に行っている。少人数で多岐にわたる業務を分担し、各々が責任をもって適切にあたり、円滑に園運営がなされている。

**(2) 優れた点及び改善を要する点**

**【優れた点】**

園務分掌は、責任担当者を複数体制で細部にわたって明記し、組織の中での責任の所在や業務内容が明確にしている。

園運営の全体計画は年度当初に示しており、必要に応じてその都度綿密に計画立案した資

料を職員会議に提出して協議・決定し、共通理解や協力体制を深め、園運営が円滑に推進できるようにしている。

### 【改善を要する点】

教育・研究・教育実習・子育て支援等、園の業務内容は、ますます肥大化しており、定められている勤務時間内での遂行は難しい。教職員の労働時間の縮減、業務内容のスリム化、ノー残業デーの完全実施等に課題が残る。

### (3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「B 達成されている」と判断する。

## 評価項目6 研修（資質向上の取組）

### (1) 観点ごとの分析

#### 観点6 園内研修や園外研修の実施及び参加ができていますか

#### 【観点到る状況】

##### ①園内研究会・合同研究会

研究主任の計画のもと、週1回程度の園内研究会の内、月1～2回程度を合同研究会として、他所属（大学・公立幼稚園・小学校等）の教員にも参加を呼びかけ、ウェブページでも広報して、下表のように開催している。

「保育の質的充実を目指して－遊誘財データベースの構築に向けて－」を研究主題に掲げ、11月の公開研究会に向け、保育の質的充実に資する遊誘財データベースの構築に必要なシステムの立ち上げや記録の収集を行った。具体的な方法としては、各自が記録を持ち寄り事例研究・保育カンファレンスを行ったり、各担任の研究保育及び保育協議を行ったりしている。

#### 資料 6－① 平成21年度 合同研究会開催日

月	日	協議の内容
5	14日（木）	①本年度の研究と幼児教育研究会について打合せ
	19日（火）	②事例研究会
	28日（木）	③研究保育と協議（3年保育4歳児空組 担任 奥三川教諭）
6	11日（木）	④事例研究会
	18日（木）	⑤研究保育と協議（3年保育5歳児川組 担任 鍋山教諭）
7	7日（火）	⑥研究保育と協議（2年保育5歳児山組 担任 吉田教諭）
9	8日（火）	⑦事例研究会
	18日（金）	⑧事例研究会（教育実習生研究保育・保育協議）
10	22日（木）	⑨事例研究会（研究紀要原稿の検討）
	29日（木）	⑩研究保育と協議（2年保育4歳児月組 担任 勝浦教諭）
11	5日（木）	⑪事例研究会・研究紀要原稿の検討
	17日（火）	⑫研究紀要原稿の最終検討
	28日（土）	研究発表「幼児教育研究会」

## ②その他園内研修

保育技術のスキル向上のため、以下のような幅広い分野の研修を実施した。

- ・ピアノレッスン
- ・フラワーアレンジメント
- ・歌唱指導法
- ・食育実習 等

## ③園外の研修会等への参加

- ・文科省等主催の研修  
子育て支援指導者養成研修 4日 1名  
幼稚園担当指導主事・担当者会議 1名  
幼稚園教育理解推進事業中央協議会 1名
- ・他附属校園の研究発表会・合同研究会
- ・全附連・四附連・近畿四国附連等の研究会 等
- ・鳴門教育大学主催のワークショップ・シンポジウム・研究会 等
- ・県・市教委主催の県・市国公立幼稚園長会、幼稚園教育課程研究協議会、幼稚園中堅教員研修、養護教諭研修会 等
- ・全国及び市幼稚園教育研究協議会、全幼研、教育会等 主催の研究会 等
- ・その他セミナー・学会 等

上記のような数多くの研究会・研修会に、園務に支障のない限りできるだけ積極的に参加している。

### 【分析結果と根拠理由】

毎週定例の園内研究会や合同研究会で、今年度の研究テーマに取り組んできた。遊誘財データベースを構築するために必要なシステムの立ち上げと保育記録の分析等について協議を進めてきた。その中で、保育者にとって必要な姿勢や考え方、保育を考える道筋、幼児理解の読み取り方や根拠、具体的な指導行為などについて具体的な意見が話し合われた。また、日々の保育記録・幼児の記録・エピソード記録等を保育カンファレンスを通して協議を重ねたり、研究保育を今年度も実施した。これらは、教員の指導力向上に直結し、私たち保育者の質の向上にも寄与したと思われる。

また、園外での研究会・研修会の参加も、多岐にわたり、年間で、一人平均5回を越える。このように、本園では、教員の資質向上のための園内研修、園外研修は充実している。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### 【優れた点】

合同研究会では、特に本園の実態や教育理念に理解のある方々の多面的な視点からの保育カンファレンスで協議が深められた。これまで構築してきた実践資料を整理し、実際に保育を行った保育者らによる保育記録の分析がすすめられた。そこで出てきた保育の質にかかわるキーワードをもとに、遊誘財データベースの構築を進めていった。これらのキーワードは新たに自分たちの保育を振り返り反省する上でも特に有効であることが確認された。



また、大学教員から専門的学際的助言や指導を得られることは、附属園であることの利点であり、教員の指導力向上・資質向上につながっている。

全国の他附属の研究会や県主催の研究会などでは、他所属の教員との交流や意見交換ができ、自らの実践を見直したり、新たな刺激を受けて、教員の教育研究へ向かう意欲が高まっている。また、研修会参加者は、全員に研修報告を行い、研修成果を伝達するように努めている。

担任外教員（非常勤講師）が配置されていることや、派遣旅費の一部は保護者からの奨学寄付金から支出しているため、数多くの県外研修会への派遣が可能となっている。また、今年度は学長裁量経費（外部資金を獲得するためのインセンティブ経費）より研修費を頂き、さらなる資質向上につながっている。

### 【改善を要する点】

これまで幼年発達支援コースの先生方を中心に研究会を重ねてきたが、他コースの先生方の参加を要請して、より多方面からの幼児の発達の専門的理解に努めることが必要であろう。

また、大学附属の利点を生かし、大学の豊かで質の高い人的・文化的環境を本園の教員の資質向上を図る研修に活用できるよう、積極的に働きかけたい。

休日の公開研究会や研修会への参加が最近増えてきたが、平日は通常保育があるため、各組の担任や専任である養護教諭は定められた代休を取得していない現状の改善が必要である。

## (3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

別添資料 6-① 平成21年度 出張一覧
----------------------

## 評価項目7 学校評価

### (1) 観点ごとの分析

#### 観点7 学校関係者評価の実施システムが運用されているか

#### 【観点到係る状況】

学校関係者評価は、昨年度作成した実施システムを基に継続的に実践している。評価項目は検討・見直しの上、一部改訂して取り組んでいる。

実施計画は次のとおりで、今年度は幼児教育研究会参加者によるアンケート実施を加え、教育・研究両面からの評価も反映できるようにと試みた。

- ①幼稚園の現況・及び目的や平成21年度の重点目標や計画の設定
- ②評価項目の設定
- ③学校関係者評価委員委嘱（昨年度より引き続き継続）

- ④第1回学校関係者評価委員会開催（平成21年7月1日）
- ⑤重点目標を考慮した教育活動の実施
- ⑥学校関係者評価委員に幼稚園教育活動の公開（運動会・オープンスクール・公開研究会・表現会等）及び意見交換
- ⑦アンケートを実施し、結果を公表（保護者対象・参観者来園者対象・オープンスクール参加者対象・幼児教育研究会参加者対象）
- ⑧自己評価書を作成し、第2回学校関係者評価委員会で説明し、学校関係者評価を実施（平成22年2月22日）
- ⑨自己評価書及び学校関係者評価報告書を設置者に報告（平成22年3月予定）
- ⑩自己評価書を公表（平成22年4月予定）

資料 7-① 平成21年度 第1回附属幼稚園学校関係者評価委員会 議事要録(一部抜粋)

### 第1回附属幼稚園学校関係者評価委員会 議事要録

日 時 平成21年7月1日(水) 16時00分～16時55分

場 所 附属幼稚園 「遊戯室」

評 価 員 田中弘之委員長, 増田万紀子, 赤澤ミユキ, 田村隆宏, 坂田大輔の各評価員

幼 稚 園 側 近藤慶子 園長, 吉田部内教頭, 楠本恒己 附属学校チームリーダー,

松江直子 附属学校チーフ

議事に先立ち, 近藤園長から, 開会に当たっての挨拶があった。

続いて, 委員の互選により, 田中評価員を引き続き委員長に選出した。

#### 議 事

##### (1) 平成21年度自己評価に係る目標及び評価項目について

近藤園長から資料1「平成21年度自己評価に係る目標・評価項目」, 資料2「平成20年度自己評価書」, 資料3「平成20年度学校関係者評価報告書」に基づき, 教育目標については昨年度と同じであり, 重点目標については昨年度よりスリム化し5点にまとめ, 本園の3つの使命を果たすための目的と, 新幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた幼稚園教育の具現化及び教員の勤務態勢の適正化に取り組むとの説明があった。

また, 重点目標を達成するための評価項目については, 学校評価ガイドラインに沿って忠実に設定した昨年度に比べ, 項目数を少し減らし, 主に平成20年度の学校関係者評価報告書で改善を要する点として挙げられた項目を設定したとの説明があった。これに関連して, 次のような質疑応答等があった。

【○印は評価員→印は幼稚園側の発言】

○評価項目について, 昨年度「A評価」であったものは, あらためて取り上げなくてもよいのではないか。

また, 項目自体の達成が難しいものがあれば, 表記の仕方を変えてもよいのではないか。例えば

- ・情報提供における観点として, 「ウェブページの活用など情報提供手段の工夫の状況」とあるが, 手段の工夫となると, ウェブページ以外に手段があまりないので, 「情報提供の活用の状況」という表記に変えて, ウェブページの更新の状況を評価していくようにする。

- ・学校評価における観点として, 「学校関係者評価の実施システムの確立の状況」とあるが, システムの確立は昨年度すでに行われているので, 「運用の状況」に変更してはどうか。

- ・教育課程・指導における観点として, 「幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況」とあるが, 色々なものを網羅していかなければならないのではないか。その年の研究テーマを評価項目にした方が, 評価しやすいのではないか。

資料 7-② 平成 21 年度 参観者及び研修会参加者によるアンケート集計結果

※実施日；平成 21 年 4 月～ 22 年 2 月 ※対象者：一般・教育関係者等来園者 155 名

アンケート項目	A	B	C	D	無	計
① 本園の環境は、幼児期にふさわしい教育環境でしょうか。	146 94.20%	9 5.80%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	155 100.00%
② 本園の目指す教育目標や教育方針は、適切でしょうか。	136 87.74%	9 5.81%	0 0.00%	0 0.00%	10 6.45%	155 100.00%
③ 幼児の基本的な生活習慣自立への援助は適切でしたか。	103 66.46%	25 16.13%	0 0.00%	0 0.00%	27 17.41%	155 100.00%
④ 幼児は、豊かな自然体験や直接体験ができていましたか。	124 80.00%	17 10.97%	0 0.00%	0 0.00%	14 9.03%	155 100.00%
⑤ 幼児は、創造的な表現活動ができていましたか。	125 80.65%	14 9.03%	0 0.00%	0 0.00%	16 10.32%	155 100.00%
⑥ 幼児は、遊びの中で試したり考えたりする学びが得られていましたか。	123 79.36%	16 10.32%	0 0.00%	0 0.00%	16 10.32%	155 100.00%
⑦ 幼児は、友達と一緒に、楽しく充実した園生活ができていましたか。	124 80.00%	16 10.32%	0 0.00%	0 0.00%	15 9.68%	155 100.00%
⑧ 一人一人の幼児の発達や心情を尊重した保育ができていましたか。	98 63.23%	26 16.77%	2 1.29%	0 0.00%	29 18.71%	155 100.00%
⑨ 施設・設備は、衛生面や安全管理の配慮ができていましたか。	128 82.58%	16 10.32%	2 1.29%	0 0.00%	9 5.81%	155 100.00%
⑩ 大学との連携による研究成果が、教育実践に生かされてきましたか。	66 42.58%	30 19.36%	0 0.00%	0 0.00%	59 38.06%	155 100.00%
⑪ 保護者も子育てについて学び、共に育ちあう雰囲気ができていましたか。	115 74.19%	15 9.68%	0 0.00%	0 0.00%	25 16.13%	155 100.00%
⑫ 来客に対する本日の教職員の対応は、適切でしたか。	143 92.26%	9 5.81%	0 0.00%	0 0.00%	3 1.93%	155 100.00%

【A: そう思う B: だいたいそう思う C: あまり思わない D: そう思わない 無: 無回答】

資料 7-③ 平成 21 年度 幼児教育研究会参加者アンケート集計結果（一部抜粋）

平成 21 年度 附属幼稚園 幼児教育研究会 アンケート結果について

実施日 平成 21 年 11 月 28 日（土）  
対象 幼児教育研究会参加者（提出者数） 296 名（109 名）

都道府県	・ 県内	83 名（76.1%）
	・ 県外	25 名（22.9%）
	・ 未記入	1 名（0.9%）
所属	・ 保育所	24 名（22.0%）
	・ 幼稚園	56 名（51.4%）
	・ 大学生	15 名（13.8%）
	・ 大学院生	6 名（5.5%）
	・ 大学、大学院教員	3 名（2.8%）
	・ 行政	1 名（0.9%）
	・ その他	2 名（1.8%）
	・ 未記入	2 名（1.8%）

内容 1 保育について 3 段階評価及び自由記述  
2 環境整備について 3 段階評価及び自由記述  
3 研究（テーマ・研究紀要・研究発表・講演・運営等）  
～感想・意見等の自由記述～

アンケート集計結果	
○保育について	
・ とてもよい	97 名（89.0%）
・ あまりよくない	1 名（0.9%）
・ どちらでもない	2 名（1.8%）
・ 記入なし	9 名（8.3%）
○環境整備について	
・ よく整っている	101 名（92.7%）
・ もっと整えて欲しい	1 名（0.9%）
・ どちらでもない	3 名（2.8%）
・ 記入なし	4 名（3.7%）

### 【分析結果と根拠理由】

昨年度作成・実施したシステムのもと、今年度着実に、計画的・積極的に取り組んできた。平成20年度自己評価書は、大学及び附属幼稚園のウェブページに一般公開しておいたところ、学校評価で悩んでいる幼稚園教育関係者からの反響が多くあった。

別添資料 1-①	平成21年度	附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果
別添資料 1-②	平成21年度	幼児教育研究会アンケート集計結果
別添資料 1-③	平成21年度	幼稚園評価アンケート結果報告書

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### 【優れた点】

昨年度設定した学校関係者評価システムに沿って、積極的・計画的に着実に学校評価を実施してきている。今年度は、今まで実施していなかった幼児教育研究会でのアンケート実施を行い、多方面から評価を得ようと試みた。

### 【改善を要する点】

目標達成に必要な評価項目は概ね掲げられ実施している。昨年度に比較すると軽減したものの今年度も評価書作成は過重負担となった。今後、評価項目の焦点化を図りたい。

## (3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「B 達成されている」と判断する。

## 評価項目8 情報提供

### (1) 観点ごとの分析

#### 観点8 情報提供の活用はされているか

### 【観点到係る状況】

本園の一般への情報提供は、ウェブページでの提供に統一している。ウェブページは、トップ・園の紹介・沿革・研究・刊行物・園児募集関連・マップ・メールの内容で構成している。

園の紹介では、日常の保育場面や行事の様子などを写真で紹介し、生き生きとした教育活動の内容をわかりやすく伝えるよう工夫をしている。

研究では、平成21年度幼児教育研究会の保育場面や研究発表の場面を写真で紹介し、研究内容や教育活動をわかりやすく紹介している。

資料 8-① 本園ウェブページ (一部抜粋)



**【分析結果と根拠理由】**

ウェブページで、本園の教育活動を紹介する目的と合わせて、幼児教育の不易なるものや時代性を反映した今日的課題解決の方策などについての考えや実践を広く発信し、奉仕園として社会貢献している。

特に、園児募集・入園希望者への園参観受付・教育講演会等の案内は、多くの入園希望者への貴重な情報提供となっていることが、ネット上での本園の話題や電話での問い合わせ等の反響から伺える。

**(2) 優れた点及び改善を要する点**

**【優れた点】**

内容・構成共に視覚情報に富み、見やすいとの評価を得ている。また、随時新しい情報や教育活動を載せるなどのニュース性も加わり、常に、注意を向けられるものとなっている。

**【改善を要する点】**

常に新しい情報を提供するウェブページ更新作業等は、少人数の教員で組織している幼稚園では、時間的にも技術的にも職員の過重負担増となる。

今年度も、引き続き、信頼のできる保護者OBのボランティアに更新作業を依頼しているが、情報管理の強化を図るため、園長の管理下におく専任のスタッフの配置が望ましい。

### (3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

## 評価項目9 保護者・地域住民との連携

### (1) 観点ごとの分析

#### 観点9 保護者・参観者等を対象とするアンケートの結果はどうなっているか

##### 【観点到に係る状況】

資料9-① オープンスクールでの保護者・参観者を対象とするアンケート集計結果(一部抜粋)

オープンスクールアンケート集計結果			
※実施日	平成21年11月8日(日)		
※回答者	オープンスクール参観者(アンケート未提出)	134名	(未提出20)
※アンケート集計結果			
○保育について			
・とてもよい	110名(96.5%)	・あまりよくない	1名(0.9%)
・どちらでもない	2名(1.8%)	・記入なし	1名(0.9%)
○環境整備について			
・よく整っている	106名(93.0%)	・もっと整えて欲しい	5名(4.4%)
・どちらでもない	3名(2.6%)		

資料7-② 平成21年度 参観者及び研修会参加者によるアンケート集計結果

※実施日；平成21年4月～22年2月 ※対象者：一般・教育関係者等来園者155名

アンケート項目	A	B	C	D	無	計
① 本園の環境は、幼児期にふさわしい教育環境でしょうか。	146 94.20%	9 5.80%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	155 100.00%
② 本園の目指す教育目標や教育方針は、適切でしょうか。	136 87.74%	9 5.81%	0 0.00%	0 0.00%	10 6.45%	155 100.00%
③ 幼児の基本的な生活習慣自立への援助は適切でしたか。	103 66.46%	25 16.13%	0 0.00%	0 0.00%	27 17.41%	155 100.00%
④ 幼児は、豊かな自然体験や直接体験ができていましたか。	124 80.00%	17 10.97%	0 0.00%	0 0.00%	14 9.03%	155 100.00%
⑤ 幼児は、創造的な表現活動ができていましたか。	125 80.65%	14 9.03%	0 0.00%	0 0.00%	16 10.32%	155 100.00%
⑥ 幼児は、遊びの中で試したり考えたりする学びが得られていましたか。	123 79.36%	16 10.32%	0 0.00%	0 0.00%	16 10.32%	155 100.00%
⑦ 幼児は、友達と一緒に、楽しく充実した園生活ができていましたか。	124 80.00%	16 10.32%	0 0.00%	0 0.00%	15 9.68%	155 100.00%
⑧ 一人一人の幼児の発達や心情を尊重した保育ができていましたか。	98 63.23%	26 16.77%	2 1.29%	0 0.00%	29 18.71%	155 100.00%
⑨ 施設・設備は、衛生面や安全管理の配慮ができていましたか。	128 82.58%	16 10.32%	2 1.29%	0 0.00%	9 5.81%	155 100.00%
⑩ 大学との連携による研究成果が、教育実践に生かされてきましたか。	66 42.58%	30 19.36%	0 0.00%	0 0.00%	59 38.06%	155 100.00%
⑪ 保護者も子育てについて学び、共に育ちあう雰囲気できていましたか。	115 74.19%	15 9.68%	0 0.00%	0 0.00%	25 16.13%	155 100.00%
⑫ 来客に対する本日の教職員の対応は、適切でしたか。	143 92.26%	9 5.81%	0 0.00%	0 0.00%	3 1.93%	155 100.00%

【A: そう思う B: だいたいそう思う C: あまり思わない D: そう思わない 無: 無回答】

今年度は、次の4種類のアンケートを実施した。

- ① オープンスクール参観者対象アンケート 134名 平成21年11月8日
- ② 参観者及び研修会参加者によるアンケート 155名 平成21年4月～平成22年2月
- ③ 幼児教育研究会参加者対象アンケート 296名 平成21年11月28日
- ④ 年長児保護者対象幼稚園評価アンケート 60名 平成22年1月16日

保護者・参観者等を対象とするアンケートの結果は、上記のとおりである。保護者対象のアンケートにおける項目は、いずれの項目もA評価が大半を占めている。幼稚園の参観者・研修会参加者などのアンケートでは、A・B評価が多いが、③幼児の基本的生活習慣の自立⑧一人一人の幼児の発達や心情を尊重した保育、⑩大学との連携⑪保護者の子育てに関わる項目などが少し評価が下がっている。

### 【分析結果と根拠理由】

オープンスクールのアンケート集計結果から、保護者の本園教育に対する評価はどの項目についても90%以上という高い水準で「とてもよい」という結果を得ている。

参観者（教育関係者・一般参観者）のアンケート結果からは、全体的に高い評価が得られている。ただ、一人一人の幼児の発達や心情を尊重した保育ができていたか等の項目では、一人一人の発達の状況が参観者に把握できないという問題がある。また、大学との連携や保護者の子育てについての設問も目前に参考となる資料がなく、わかりにくいということが、無回答であったり、他の項目より評価が「A と思う」にならない要因ではないかと考える。また、わからない点は無記入でよいという事前の説明も影響していると考え。幼児の生活習慣自立への援助の項目では、評価が「A と思う」「B だいたいと思う」が80%前後である。時間をかけての習慣の自立という点は見えにくいとも思われるが、今後の課題として取り組んでいきたい。

別添資料 1-①	平成21年度	附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果
別添資料 1-②	平成21年度	附属幼稚園幼児教育研究会アンケート集計結果
別添資料 1-③	平成21年度	幼稚園評価アンケート結果報告書

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### 【優れた点】

幼児教育の内容や方法・環境が特に優れているという評価を得られた。

保護者からのアンケート結果は、解説付きの報告書を回答者全員に配付し、年少・年中児の保護者も含む保護者会で、園長が「附属幼稚園の現状と課題－アンケート結果をふまえて－」について講話し、理解・協力を求めている。

### 【改善を要する点】

改善を要する点について具体的提案は見当たらない。参観者が評価する時に、参考となる具体的情報を事前・事後に細かく説明したり、質疑応答に応じたりしているが、提示の工夫

が必要であると考える。

### (3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

## 評価項目10 子育て支援

### (1) 観点ごとの分析

#### 観点10 保護者の実情や要望による幼稚園の子育ての支援活動が実施できているか

##### 【観点に係る状況】

本園では従来、子育ての自立へむけた子育て支援活動をみどり会研修活動の一環として、積極的に実施している。保護者相互の交流を促進する機会や場の提供、保育参加・参観、子育て情報の提供、教育相談の実施、スクールカウンセリング、施設の開放等様々である。

ここでは、特に今年度新しく企画した3事業について評価する。

#### (1) 「夏期保育」の実施

- ・平成21年度夏期休暇中に、園の施設を利用し、保護者が中心となって運営する「夏期保育日」をもうけ、9回実施した。

第一回・・・7月24日	第二回・・・7月27日	第三回・・・7月29日
第四回・・・8月3日	第五回・・・8月5日	第六回・・・8月18日
第七回・・・8月20日	第八回・・・8月25日	第九回・・・8月27日

<内容>教師の指導で、夏期休業中に行っていた飼育栽培活動をベースにし、保護者による企画運営へと発展させたもの。

9時集合→飼育栽培活動・夏野菜の収穫→活動(動的)→昼食(パン・野菜ジュース等の軽食)→活動(静的)→13時30分にまとめ・解散の流れで、担当の学級から5人前後の保護者が出席し運営する。

#### (2) 「あいあいサポート」試行

- ・平日の教育課程に係る保育終了後、園の担当者2名と希望する保護者2・3名により、サポートを希望する幼児を引き続き16時まで保育する。今年度は試行期間として合計7回実施し、そのうち希望があれば一回参加できることとした。全試行終了後、アンケート等を実施して反応を確認し、活動内容・回数等、来年度以降の参考とする。

第一回・・・平成22年1月21日	第二回・・・1月28日	第三回・・・2月2日
第四回・・・2月18日	第五回・・・2月23日	第六回・・・2月25日
第七回・・・3月4日		

<内容>午前中で保育が終了する曜日を選び実施する。通常の保育終了後、参加する幼児はそのまま園に残り、昼食をとる。午後の活動については、園の教師全員で通常



保育の流れや内容と合い、効果的で無理のないものを考えて計画を立てるようにする。担当講師と希望の保護者が中心となって運営するが、全ての教師も適宜サポートする。15時過ぎからはおやつを食べながら休息をとり、ミーティングをして活動を振り返ったり、後日の保育につなげたりする。保護者の迎えは16時とする。

(3)「よるトーク」開催

- ・多くの保護者がつどい、リラックスして自由に本音で語りあえる場として、“夜”“寄る”“依る”“抛る”等からネーミングした。基本的に毎月第三金曜日に、本園遊戯室で行う。

第一回・・・5月15日      第二回・・・6月19日      第三回・・・7月17日  
第四回・・・9月18日      第五回・・・12月18日      第六回・・・1月22日  
第七回・・・2月19日

<内容> 19時30分から始まる。本園になじみの深い講師を迎え、子育てに関するさまざまな情報や考え方、具体的な指導等を聴かせていただいたり、保護者同士で話し合ったりする。

**【分析結果と根拠理由】**

(1)「夏期保育」について

- ・修了児保護者アンケートからも、普段のやりとりからも、夏期保育に関する高い評価が得られた。具体的な評価・意見としては、次のような事項が寄せられた。

<預ける側から>

- ・子どもと離れてリフレッシュした。
- ・自分のための時間ができる（趣味や仕事につかう）
- ・園児が居ない間、他の兄弟にじっくりかかわれる。
- ・長期の休み中、家だけで居ると親子で煮詰まる感じがするが、夏期保育に参加して変化がついて良かった。
- ・他学級の幼児や兄弟など、幅広い年代の子どもと触れ合える。

<運営側から>

- ・自分たちで運営し、大変さと楽しさがあり充実した。
- ・協力して運営し、お互いに仲良くなれた。
- ・一回運営に参加して全力でかかわり、やりがいがあった。回数が多いと無理かもしれない。

(2)「あいあいサポート」について

- ・参加の子どもには好評。
- ・平成22年1月末現在において数回実施した段階であり、年度末に状況を分析したい。

(3)「よるトーク」について

- ・参加人数は15名～20名前後のことが多い。
- ・仕事を持つ保護者の方には貴重な学びの場のように、毎回必ず参加している保護者の方もいる。
- ・講師が県立総合教育センターや鳴門教育大学の専門性の高い講師であり、しかも本園の教育にも詳しいので、内容が濃い。

- ・子育ての悩みが軽くなった。
- ・みんなも悩んでいることを知り、自分だけではないと安心できたという意見が多い。

別添資料 1－③ 平成21年度 幼稚園評価アンケート結果報告書  
別添資料 10－① みどりかいだより 62号 (2009.6.12 発行)

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### 【優れた点】

- ・現在、本園の教育課程による保育内容と子育て支援活動との違和感のない繋がりに配慮しているが、今後さらに内容等、深めすすめていくようにする。
- ・「夏期保育」「あいあいサポート」「よるトーク」は、いずれも今年度から実施・試行したものであり、すべて保護者会組織“みどり会”と園との相談により起ち上げられた活動である。よって、園側からは日々の保育で読み取った幼児と保護者の実情を、保護者側からは抱える要望を、出し合い生かし合えるように工夫された子育て支援活動といえる。
- ・長期休暇中・平日・夜間と、時間的にも内容的にも多角的に保護者の方への子育て支援が考えられている。
- ・多忙な子育て中の保護者の方は、日々ストレスのたまりやすい状況にある。その支援として、自由な時間を保障し有効に過ごしてもらうことは大切なことである。結果として子どもによい形でかえっていく。
- ・保護者の方が活動を運営し、大きな充実感を得て自信を持つことで、子育てに対してゆとりができる。また保護者同士の連携感も強くなる。

### 【改善を要する点】

- ・運営に携わる一部の保護者だけの過重負担にならないよう、相互に配慮できるよう考える。また、開催曜日や時間、事前のニーズ等の調査についても再考する。

## (3) 評価項目の達成及び取り組み状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

### 評価項目 1.1 教育環境整備

#### (1) 観点ごとの分析

観点 1.1 設置者と連携した施設設備の安全・維持管理のための整備はできているか

#### 【観点到る状況】

・ 営繕工事の計画・実施の状況

営繕工事要求書を作成し、大学施設課と連絡調整をして、計画的に営繕工事を実施した。平成 21 年度の主な営繕工事は、雨漏り補修工事（川組廊下・絵本の部屋西）・コンセント容量増設・空組中庭テント張り替え・電灯安定器交換・浄化槽ポンプ取り替え等で、緊急を要するものから優先的に着工した。

・ 施設・設備の充実整備の状況

地デジ対応大画面液晶テレビ 8 台が設置され、放送教育の番組視聴はもちろん、園内ネットビデオ放映、防犯カメラのモニターや PC によるプレゼン等、多面的に活用できるようになった。

3 連ずつのブランコは安全面での課題があったので撤去し、新たに 2 連ずつで腐食しにくいステンレス製のブランコを設置した。

幼児用暖房便座に取り替え、寒い時期も安心して用便ができ、幼児の生活習慣形成に役立つことを期待している。

地震速報装置（緊急災害情報受信端末装置）が新設され、緊急時のリスク軽減化が図れるようになった。

これまで未設置であったままごとの部屋・おやつ部屋に扇風機を取り付け、空調の効率化を図った。

老朽化したシーソーの撤去、総合遊具のネットや丸太の補修取り替え、雲梯や吊り輪・滑り台等の下に安全マットの設置、スケーター置き場テント張り替え・チェーンの交換等を行い、潜在事故のない安全な環境になるよう整備した。

ピアノ鍵盤の張り替えと調律をして、正確な美しい音が提供できるよう整備した。

オープンスクールのアンケートの自由記述で、遊戯室の蛍光灯のちらつきの指摘があったので、即、施設課に相談し、調査のうえ、電灯安定器を交換した。

・ 労働環境の充実整備の状況

高速 2 色刷り印刷機に更新し、省力化が図れた。

職員用パソコン 8 台が更新され、今後の業務の効率化に期待がもてる。

大容量のパソコンが新たに配置され、データベース用の映像編集作業や画像処理等の時間短縮が図れた。

老朽化していた職員用個人ロッカー・シューズボックスを新調した。

エアコンクリーニング・ワックス清掃業務等を業者委託し、省エネと労働時間短縮を図った。

・ 今年度新規購入した遊具・用具等の状況

木製円形テーブル・椅子・ログテーブルベンチ・店ごっこ屋台・ログハウスワゴン・作品乾燥棚・ラティス・養生マット・ジョイントすのこ・砂場シート等

**【分析結果と根拠理由】**

環境を通して行うことが基本の幼稚園教育では、施設・設備・遊具・用具等の整備は常に

意識して実施している。職員の安全に対する意識も高く、幼児が生活しやすいよりよい教育環境作りに対して前向きである。また、点検のシステムは確立され、潜在事故の危険性や修理・修繕を必要とする箇所を生活の中で、また、定期的な点検の中で見つけている。

附属学校チームや大学施設課と、常に迅速で緊密な連絡をとりあい、特に故障や破損等については、迅速な対応なされた。特に今年度は、補正予算（163万円）でテレビ・臨時経費予算（100万円）で印刷機、臨時経費予算（110万円）でブランコ等が大学からの経費で整備され、有難かった。

本園の環境整備についてのアンケート集計結果は、オープンスクールでは93%が、幼児教育研究会では92.7%がよく整っていると認めている。

参観者及び研修会参加者によるアンケート集計結果（資料7-②）では、「施設・設備は、衛生面や安全管理の配慮ができていましたか」では、92.9%がA・B評価としている。

資料 11 - ① 平成21年度 施設設備工事等一覧

	事 項	金 額
1	扇風機取付(ままごとの部屋(2)・おやつ部屋(1)) 計3台	110,600
2	総合遊具修繕	357,000
3	雨漏り補修工事(川組廊下・絵本の部屋)	—
4	木製円形テーブル, 椅子, ログテーブルベンチセット, ログテーブル	495,940
5	コンセント容量の増設(職員室・園長室・多目的室の振り分け)	—
6	地震速報装置設置(緊急災害情報受信装置)	—
7	浄化槽ポンプ取替工事	—
8	地デジ対応テレビ設置(各保育室(5)・多目的室(1)・職員室(1)・事務室(1))	1,383,907
9	空組中庭テント張替工事	—
10	高速2色デジタル印刷機	998,000
11	北棟雨漏り補修工事	—
12	遊具(ブランコ・シーソー)撤去・ブランコ設置工事	1,099,640
13	遊戯室電灯安定器交換	—
14	壁付鏡(遊戯室)設置	80,000
15	スケーター置き場テント張替工事	199,500
16	職員用ロッカー	244,440
17	職員用靴箱	112,875
18	ピアノ調律・鍵盤張替え修理	185,000
19	幼児用暖房便座	487,200
20	エアコンクリーニング	150,150
21	ワックス清掃業務	94,500
22	教材整理棚(山(1)・月(1)・空(1)) 計3台	526,000

別添資料	1-①	平成21年度	附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果
別添資料	1-②	平成21年度	附属幼稚園幼児教育研究会アンケート集計結果

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

安全点検によるチェック機能はよく働いており、施設・設備として不備な点はすぐに設置者との連携がとれ、附属学校チーム及び大学施設課の手厚い支援で、教育環境が常に美しく整備されている。

### 【改善を要する点】

現在の園舎は、昭和 44 年に建築されたもので、築 40 年を経ており、接合部の雨漏り・モルタルの剥落やひび割れ等の老朽化が目立つので、園舎改修を切望している。

### (3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

## 評価項目 1 2 教育実習

### (1) 観点ごとの分析

#### 観点 1 2 専門性や実践力を養う教育実習の実施ができているか

#### 【観点到る状況】

教員の育成を目的とした教育実習を次のとおり行っている。

#### 資料 1 2 - ① 実施状況・目的

- |   |                            |           |                                 |  |
|---|----------------------------|-----------|---------------------------------|--|
| 1 | ふれあい実習                     | 9月14日     | 1年生4名・大学院生1名                    | 目的 教育実践現場の様子を観察することにより、教職及び幼児理解を深める。子どものふれあいを通して、体験的に子どもの姿を学びとり子どもの理解を深める。教職への意欲を高めるとともに、教職に向けての自己課題を明確にする。                                |
| 2 | 附属学校園直前観察実習                | 6月16日～17日 | 3年生6名・4年生1名・大学院生1名              | 目的 附属幼稚園での保育参加を通して、「保育の成立要因」の明確化を図る。幼児への関わり方を観察・体験したり、実習生の取り組みや附属教員の実習指導の様子を受けとめたりすることにより、教育実習への自己課題の明確化を図る。                               |
| 3 | 附属校園実習・教員インターンシップオリエンテーション | 7月15日     | 3年生6名・4年生1名・大学院生1名・教員インターンシップ1名 |  |
| 4 | 附属学校実習                     | 9月1日～30日  | 3年生6名・4年生1名・教員インターンシップ1名        | 目的 学習指導、幼児・生徒指導、学級経営など、教育活動全般にわたっての実習体験を重ねることにより、「教師として具有すべき教育観・教師として保持すべき心構え」、「教師として習得すべき指導方法」を実践的に学ぶ。特に保育・授業における基本的指導技術を習得することが主たる目的である。 |
| 5 | 教員インターンシップ                 | 9月1日～14日  | 4年生1名                           | 目的 教職に就いた直後から円滑に業務を進められるよう、教育現場の業務に慣れる。教育実践力の向上を図る。子どもとのふれあいを通じて子ども理解を一層深める。学校現場で生じている今日的課題を理解する。  |

資料12-② 実習内容

1 実習事前にあたって  
 附属校実習・教員インターンシップにおける事前調査を大学から送ってもらう。実習にあたっての心構え・目指すことを事前に提出してもらう。

2 保育について  
 毎日、指導教員に教育実習録・保育案を提出し、週に一度、観察記録、週の指導記録・幼児の記録を提出する。一人ひとりの子どもの育ちを信じ、持ち味を生かしながらその時期を取り残すことのないように過ごさせるための一日の保育計画を作成し、保育にあたる。保育後はその日の子どもたちの生活ぶりを記録し、保育者と実習生で一日の保育を振り返る等ミーティングを行う。(遊びの様子・かかわった子ども・活動やその内容・取り組みの様子・友達関係・顕著に見られた事柄・全体で考えるべき事柄)。自分のとった行動を振り返り何をねらってどう幼児とかかわったか、それが教育課程や指導計画とどう関連しているかを考え、保育の展開や深さ、保育に必要な基本的な姿勢、考え方等を学んでいく。更に、全職員とのミーティングでは、各教員が気付いた所心がけていくべき所など、いろいろな目で実習生を観ていった。保育だけにとどまらず、社会人として働くにあたっての姿勢や礼儀なども指導した。

資料12-③ 実地教育計画表

平成21年度 鳴門教育大学附属幼稚園 実地教育計画表

(○全体、●学級・学年)

週	月/日	曜	行 事	実習事項	指 導 要 項	備 考
1	9/1	火	〈防災の日〉 避難訓練 教育実習開始・対面式	観審参加	○教育実習の意義(園長) ●9月の指導計画について ●第1週保育内容について・記録のとり方 ○本園の教育について(園長) ○本園の教育課程・指導計画/領域研究・言葉(吉田)	諸書類提出 記念写真撮影 (実習生・職員) ひとり会理事會
	2	水	身体測定(4歳)	保育(一部)		
	3	木	身体測定(3歳)	保育(一部)		四 附 連 研 究 会 (9/4 近藤)
	4	金	模範保育(月組・川組)	観審参加	○学級経営・学級事務(吉田) ○領域研究・人間関係(勝浦) ●学級経営方針について ○模範保育についての研究会 ○家庭との連携について(新田)	ふれあい観審実 習講義・学内 (吉田)
	5	土				
	6	日				
	7	月	〈白露〉 保育多観	保育(一部)	●第2週保育内容について ○環境整備(園庭周辺・遊戯室の教材教具) ○食育について(新田)	A*アメリケ-II
2	8	火	合同研究会①	保育(一日) 前半・後半		第1週記録・第 2週計画提出
	9	水	〈救急の日〉 午後保育①	保育(一日) 前半・後半	○領域研究・表現(鍋山) ○保健・安全指導について/領域研究・健康(佐藤)	入園希望者参観
	10	木		保育(一日) 前半・後半	○本園の人権教育について(興三川) ●4年生評価保育案作成	教育講演会 13:30-
	11	金	8月誕生会 4年生評価保育	保育(一日)	●4年生評価保育反省会 ○領域研究・環境/幼児理解と幼児指導について(堀江) ○研究保育保育者決定・評価保育日程等について(勝浦)	県園長会(近藤)
	12	土				
	13	日				
	14	月	午後保育日 実地教育Ⅶ教員研修終了 ふれあい実習観審実習(1年)	保育(一日) 前半・後半	○教育実習反省会 ●第3週保育内容について	
3	15	火		保育(一日)	○行事教育-運動会・園外保育について(鍋山)	第2週記録・第 3週計画提出 入園希望者参観
	16	水	午後保育日	保育(一日)	○園内安全点検について(今月の安全点検担当者) ○研究保育案作成	県PTA振興大 会
	17	木	職員会議	保育(一日)	○研究保育案作成	研究保育案提出 ・印刷・配付
	18	金	実習生研究保育 合同研究会②	研究保育	○研究保育反省会 ●第4週保育内容について	学校安全の日 よるトーク②
	19	土				
	20	日	〈徳島入り〉(動物看護週観)			
	21	月	敬老の日			
4	22	火	保育日			
	23	水	秋分の日			
	24	木			○評価保育について	第3週記録・第 4週計画提出 入園希望者参観
	25	金	午後保育日		●評価保育の指導案作成	
	26	土				
	27	日				
	28	月	午後保育 実習生評価保育①	評価保育 保育(一日)	●評価保育の反省会 ●評価保育の指導案作成	附小保育大会 附小振替休
29	火	実習生評価保育② 合同研究会③	評価保育 保育(一日)	●評価保育の反省会		
30	水	午後保育・園外保育 附属校園遊覧終了	保育(一部)	○教育実習反省会	入園希望者参観	
10/9	金	午後保育日・運動会前日準備				
10/10	土	前期終業式・運動会				
10/11	日	運動会予備日				

・保育案は、前日までに担任教員の指導を受け、当日の朝提出すること。  
 ・整理した教育実習録と感想は、10月15日(水)までに提出すること。専断に連絡を入れるようにすること。  
 ・運動会は実習終了後になりますが、全員参加を希望します。

資料12-④ 自己評価観点表

評価観点	第一週	第二週
幼児理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察参加の中で幼児の行動観察記録をとり、遊びに込められた教育的意義について考察する。</li> <li>・自分のかかわった幼児を中心に、遊びの様子やエピソードを記録する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の行動観察記録やエピソード記録をとり、遊びに込められた教育的意義について考察する。</li> <li>・幼児の行為（現象）について記録し、その意味について考察する。</li> <li>・一人一人の幼児の発達状況と指導の重点について記述し、幼児理解を進める。</li> </ul>
環境の構成と指導案の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導教員の保育を観察し、環境の構成や具体的な指導について記録し、基本的な保育の構えと意味について理解する。</li> <li>・幼稚園教育指導要領の各領域について研究し理解を進める。</li> <li>・教育課程と指導計画について理解を進める。</li> <li>・一部保育場面についての指導案を作成し、指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程と指導計画の関連について考察しながら、一部保育場面及び一日の保育についての指導案を作成し、指導を行う。</li> <li>・幼児の実態（興味や関心、発達状況など）について研究しながら、実際に環境の構成を行い、その結果について考察する。</li> <li>・幼稚園教育指導要領の各領域について研究し理解を進める。</li> <li>・園外保育の下見、指導案の作成、指導の実際などを通して地域環境を取り込んだ保育実践の展開や留意事項、危機管理について理解する。</li> </ul>
幼児とのかかわり（指導の実際）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導教員の保育の実際について観察し、保育後のカンファレンスに参加する。</li> <li>・自分自身の幼児とのかかわりを記録し、意識化を図りながら、指導教員や他の教生たちとのディスカッションを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の実態（興味や関心、発達状況など）についての読み取りと、実際の指導、幼児の反応や活動を相互に関係づけながら省察する。</li> <li>・自分自身の幼児とのかかわりを記録し、意識化を図りながら、指導教員や他の教生たちとのディスカッションを行う。</li> </ul>
保育評価と省察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導教員の保育の記録をとり、教師の意図や幼児との応答の様子、幼児の活動の変化について考察する。</li> <li>・幼児の記録（行動観察記録・エピソード記録）について考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身の保育の記録をとり、環境の構成、教師の意図、幼児との応答の様子、幼児の活動の変化についてディスカッションし考察する。</li> <li>・幼児の記録（行動観察記録・エピソード記録）について考察する。</li> </ul>
学級経営と学級事務の実際	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導教員より学級の実態や学級経営方針について説明を受け、それについてのディスカッションを行う。</li> <li>・学級事務についての考え方について説明を受ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導教員と共に学級事務にかかわりながら実務を体験する。</li> <li>・保健・安全指導について養護教諭並びに担任から講話を受ける。</li> <li>・同和教育・人権教育について講話を受け、ディスカッションの中で課題を意識化させる。</li> <li>・家庭との連携について講話を受け、幼児を取り巻く諸環境や保育実践の背景について理解する。</li> </ul>
自己評価観点の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己課題をもって保育観察及び幼児の観察ができたか。</li> <li>・保育観察、講話、ディスカッション等から得た知見を記録し自分なりの解釈を記述できたか。</li> <li>・幼児や他の保育者たちと共に学び合い成長しようとする心情や意欲、態度であったか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己課題をもって保育ができたか。</li> <li>・一人一人の幼児についてどのように理解が進んだか。</li> <li>・保育観察、講話、ディスカッション等から得た知見を記録し自分なりの解釈を記述できたか。</li> <li>・幼児や他の保育者たちと共に学び合い成長しようとする心情や意欲、態度であったか。</li> </ul>

### 【分析結果と根拠理由】

今年度の実地教育は、幼稚園における幼児との直接的なかかわりの過程をとおして、指導教員のもと教職の体験を積み、教員となるための実践上の基礎的な能力や態度を養うことを目的として実施した。

実習生は、教育専門職にふさわしい実践的能力や研究態度を身に付けようと実習に取り組み、子どもと共に生きるという基本事項についての気付きや課題の明確化がそれぞれに図られた実習となった。

しかし、今年度は新型インフルエンザ対応のため、体調管理に苦慮した。毎日検温をし、少しでも不調で感染のおそれのある学生は自宅待機とするなど、従来と比べると、実習時間が少なかった。

教育実習とは別に、幼年発達支援コースとの自然プロジェクトや夏期保育やあいあいサポートのボランティアとして学生が保育参加している中で、より幼児理解の深まりや実践力の向上が図られ、実習にもよい影響が感じられる。

保護者アンケートの自由記述に次のような記述があり、保護者からも多くの支持を得た実習であった。

資料 12-⑤ 平成21年度 幼稚園評価アンケート結果報告書（一部抜粋）

#### 教育実習生のお子様へのかかわりで気付いたことをあげてください

「お兄さん・お姉さんとしての実習生は、とても頼もしく安心できる存在だった」「一人ひとりの名前を覚えて丁寧で一生懸命な保育にとっても感動しました」「どの実習生も一生懸命で好感がもてました」「本気になって遊んでくれていた」「実習期間中は実習生の先生に会えることを楽しみにしていました」「常に子どもの目線の高さになってかかわってくれていた」などの感想もいただきました。

別添資料 12-① 実習の手引き

別添資料 1-③ 平成21年度 幼稚園評価アンケート結果報告書

## (2) 優れた点・改善を要する点

### 【優れた点】

教育専門職にふさわしい実践的能力や研究態度を身に付けようと実習に取り組み、子どもと共に生きるという基本事項についての気付きや課題の明確化がそれぞれに図られ、多くの成果が得られた実習となった。

### 【改善を要する点】

- ・インフルエンザ等、緊急な対応を要する件については大学との緊密な連携が必要である。
- ・教育実習中の本園教員の勤務時間は、変形労働時間制で1日10時間勤務となっているが、それ以上の長時間勤務となっているのが現状である。



### (3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

## 評価項目 13 センターの役割

### (1) 観点ごとの分析

#### 観点 13 幼児教育関係者への研修支援及び教員の派遣はできているか

##### 【観点到係る状況】

本園は研究幼稚園・奉仕幼稚園としての使命をもっている。

今年度の具体的な研修支援、教員派遣として、

- ・全幼研徳島支部の事務局を本園におき支部の研修を企画運営
- ・教員の県内外研修会への講演派遣
- ・合同研究会の開催
- ・平成 21 年度幼児教育研究会の開催
- ・幼児教育関係研修会への講師派遣
- ・県新規採用研修・新任園長研修会の場の提供などがある。

##### 【分析結果と根拠理由】

教育のセンター的役割を十分果たしていると思われる。

別添資料 13-① 平成 21 年度 研修会講師派遣、研修会会場提供一覧
--------------------------------------

### (2) 優れた点及び改善を要する点

##### 【優れた点】

県内外より講演依頼があり、幼稚園教育についてや教育の先端的な情報を県内外に広める役割を十分果たしている。

##### 【改善を要する点】

講師に派遣する教員の中には園長や学級担任をしている教諭がおり、多忙を極めているので何らかの改善が必要と思われる。

### (3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

### Ⅲ 自己評価別添根拠資料一覧

評価項目	資料番号	資 料 名
1	1-① 1-② 1-③ 1-④	平成21年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果 平成21年度幼児教育研究会アンケート集計結果 平成21年度幼稚園評価アンケート結果報告書 附属幼稚園生活プラン（2008.11.20発行）
2	2-① 2-②	新型インフルエンザに対する対応について＜8月31日改訂版＞ ほけんだより11月号（2009.11.2発行）
3	3-①	平成21年度安全管理計画－危機管理マニュアル－
6	6-①	平成21年度出張一覧
7	1-① 1-② 1-③	平成21年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果 平成21年度幼児教育研究会アンケート集計結果 平成21年度幼稚園評価アンケート結果報告書
9	1-① 1-② 1-③	平成21年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果 平成21年度幼児教育研究会アンケート集計結果 平成21年度幼稚園評価アンケート結果報告書
10	1-③ 10-①	平成21年度幼稚園評価アンケート結果報告書 みどりかいだより62号（2009.6.12発行）
11	1-① 1-②	平成21年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果 平成21年度幼児教育研究会アンケート集計結果
12	12-① 1-③	実習の手引き 平成21年度幼稚園評価アンケート結果報告書
13	13-①	平成21年度研修会講師派遣，研修会会場提供一覧

